

北海道大学地球物理学研究報告, 18, 71-81.
 Magono, C., 1971: On the Localization phenomena of snow fall, Jour. Met. Soci of Japan, 46, Special Issud 824-836.
 中岡裕之・山崎道夫, 1966: 北海道西海岸の局地的大雪に関する総観解析, 日本気象学会, 1966年度秋季大会予稿集, 10, 159-160.

岡林俊雄・里見 穂, 1971: レーダーと気象衛星による雪雲の研究 (I), 天気, 18, 573-581.
 岡林俊雄, 1972: 気象研究ノート, 113, 74-106.
 斉藤 実, 他, 1968: 北海道石狩湾附近の降雪のレーダー解析, 天気, 15, 42-50.
 杉中正一, 1964: 北海道西海岸の小低気圧と局地的豪雪, 天気, 11, 183-188.

海外だより

外国の気象観測所めぐり (2)

—プエルト・エデン (チリー) 49°20' S, 74° W—

1967年から68年にかけてのわれわれ京都大学アンデス探検隊の基地はチリー空軍の気象観測所があるプエルト(港)・エデンであった。出発前に日本で読んだ情報では、ここは世界でも有数の降雨地帯で無降水日があほとんどなく、強風が吹きあれていて、住民は東洋系のアラカルフという原住民で、貝を主食にし冬でも裸で海岸に寝ているというような程度で観測所があることが出発直前にわかった。氷河探検のあとチリー各地でいろんな人に聞いてみても、そんなところに人がいるのかという返事が帰ってくるだけで、わたしたちがとりわけ不勉強であったわけではなさそうである。

ここは南米パタゴニア大陸の東側に位置し、西はこの港のあるウエリントン島の中央山脈をこえと荒波の寄せる太平洋に達する。南半球のジェット気流は大陸にさえぎられることなく地球を一周してここでアンデス山脈につき当るが、この付近は集中豪雨は少なく、むしろ年中「シバスコス」と呼ばれる山陰地方の「しぐれ」のような雨が1日数回波状的に降る。シバスコスが幕のようになって近ずき、後方へ過ぎ去って行く、ウエリント

ン島と大陸の間のフィヨルドをチリー海軍の軍艦に乗せてもらって南下し、エデンの港についたわたしたちは、アラカルフ達がバラックとはいえちゃんとした家を持っているのを見て安心したり近代化をなげいたりしたものである。その中にきわ美しい、おとぎ話にでも出てきそうな建物が気象観測所であった。所員は4名で、所長は年中無休の1日8回観測をほとんど一人でやっている。観測結果は無線で直ちに空軍基地に送られる。所長の仕事はそれだけでなく、周囲に住んでいる数十名の現住民や近くの島島に散在している貝採りの漁師や木樵たちの村長もかねており、時には家庭裁判所長もしなければならぬ。他に測器掛と雑用(食事など)掛および医者があり、モーターボートで数時間もかかる島島への食糧配達も彼らの仕事である。ここには小学校も併設されていて毎日子供達が小舟に乗って集まって来る。このような仕事量は常識では不可能と考えられるが、そこは南米特有の気楽な性格で、適当に調整して楽しく暮している。1日8回観測とオールナイトの宴会が両立するのである。(京大防災研 中島暢太郎)

(以下 380 ページの続き)

の形成の過程はかなり複雑で、力学的な過程のみでなく雲物理学的な過程も関与している問題であり、まだまだ分っていないことが多いようです。尾鷲・大台ヶ原地方に何故大雨が多いかということは、地域的な問題として

も興味ある重要な問題ですが、そこで起こっている物理的過程は、いくつかの異ったタイプの降水雲の相互作用にもとづく降水形成過程という興味ある問題を含んでいるといえます。(名大水圏科学研究所 武田喬男)